

名 称	山形県地域貢献活動情報センター（中央センター）
所 在 地	〒994-0032 山形県天童市小路1丁目7-8 山形県青年の家内
連 絡 先	TEL：023-654-4545 FAX：023-652-2007 URL：http://seinen.jp

地域の現況・特色

活動対象地域の人口 山形県 1, 216, 181人（平成17年10月1日現在）

山形県は、秀麗な山々に囲まれ、母なる最上川や緑豊かな田園など美しい自然に恵まれた地域であり、農地や樹林地、里山、集落や市街地など土地利用の編み目が綾をなし、美しい県土を形成している。

東京からは概ね300kmの距離にあり、東西で約97km、南北約164kmに及び、県土面積は、国土面積の約2.5%を占める93万ha（全国第9位）であり、この72%を森林が占めている。

行政区域としては、村山・最上・置賜・庄内の四つの地域からなり、文化的にも変化に富んでいる。現在、山形県では第5次山形県教育振興計画により「いのちの教育」を推進している。

コーディネートした事例の名称、概要、特色

名称 「やってみよう！ＹＹボランティア」

山形県では、地域を単位とした青少年ボランティアサークルの活動が盛んに行われており、「ＹＹ（やまがたヤング）ボランティア」と呼ばれている。また、他県にはあまり例を見ないことから、「山形方式」として注目されてきた。この「ＹＹボランティア」は次のような特徴を持っており、県内各地に広がっている。

学校単位としてではなく、学校枠を越えて地域単位の活動として行われており、より自律性の高い活動として展開している。各市町村の公民館等を活動拠点として、企画・準備から運営まで自分たちが「やりたいこと」をじっくり話し合っ活動を進めている。「ボランティアとは何か？」が先にあるのではなく、その体験を通して「ボランティア」を感じ取っていくのが「ＹＹボランティア」のスタイルである。

それぞれの地域にマッチしたユニークなサークル名を高校生自ら付けている。例えば、鮭川村「SAKEKKO」、鶴岡市（朝日地区）「かだんこの会（かたくりの花の意）」、大蔵村「ぎゃらくと（おたまじゃくしの意）」、舟形町「ふなっ子」、寒河江市「チェリーズ」、

長井市「がっちゃんくらぶ」などがある。また、1994年2月14日のバレンタインデーに天童市に結成されたということで「V942TEN-DO」とネーミングされたサークルもある。

「やってみよう！ＹＹボランティア」は、ボランティア活動に興味を持つ小中学生・高校生を対象に、ボランティア活動のきっかけづくりとして地域での身近なボランティア活動を体験する機会を提供するとともに、県内全市町村で活動する地域青少年ボランティアの存在や活動を、広く県民にアピールする事業である。山形県では90を超える地域青少年ボランティアサークルが活動しているが、この事業は、こうしたサークルが7～8月の期間に行われるボランティア活動を広く開放し、サークル会員外の一般小中高校生の体験参加を受け入れている。多くのサークルの指導者・担当者・会員のおかげで、今年の夏は、活動体験者が403人にのぼった。

各サークルからの報告書では、「体験参加し、サークルに入会した方がいます。」との嬉しい成果が紹介されている。「会員の確保」が各サークルの課題となっている中で、こうした例がさらに増えることが望まれる。

*サークル会員の感想

「私のボランティアサークル自慢」

ジュニア・リーダーあすなろ（上山市）：高校女子

私が所属している「ジュニア・リーダーあすなろ」は、一人一人の個性が強い集団ですが、それでいてまとまりがあります。たまに強すぎてしまうこともありますが、それも「あすなろ」のいいところだと思っています。

「あすなろ」では1年間にたくさんの行事をしています。お花見や芋煮会などの季節の行事や宿泊研修、他サークルとの交流会、海の子山の子交歓会…。その中でも一番大きい行事が「わんぱく交歓研修会」です。準備には約2か月をかけます。前日に山に登り、最終準備。そして次の日から、子どもたちと2泊3日の活動が始まります。場所が山だけに、天候に左右されたり、食事の準備や他の活動も簡単とは言えません。それでも子どもたちは喜んでくれて、最終日に楽しかったと言ってくれるのが、とてもうれしいです。やり遂げたという達成感と、多くの時間を費やしてきた充実感とで、胸がいっぱいになります。「あすなろ」にいて良かったと感じる瞬間です。

「あすなろ」とは、たくさんの行事を通して、自分を成長させたり、お互いを高め合ったりできるところです。そんな「あすなろ」で活動していることを、私は誇りに思っています。だからこそ、私はもっとたくさんの人たちに、「あすなろ」の良さを知ってもらいたいと思っています。

コーディネートの実際

山形県地域貢献活動情報センター（山形県青年の家内）では、県内地域青少年ボランティアのビューローとして、「ボランティアサークル活動状況の収集と紹介」と「ボランティアサークルの情報交換・発表・交流会」など、その支援に取り組んでいる。また、平成17年度から「やってみよう！ＹＹボランティア」の支援を行っている。

1 支援機能について

① 活動アドバイザーの配置

山形県地域貢献活動情報センターでは、地域貢献活動アドバイザーを2人の方に委嘱しており、ビューロー運営の企画・立案、並びに、「やってみよう！ＹＹボランティア」のコーディネートを行っていただいている。

② 「ＹＹボランティア」各サークルの活動状況の把握

高校生を中心とする地域青少年ボランティアサークルは、県内35市町村（平成18年12月現在）にある公民館等にサークルが組織され、毎週活動日を定めて様々な活動を行っている。その活動状況を把握するために、6月と12月に県内4地区の教育事務所を通して、「地域青少年ボランティアサークル運営状況調査」を実施している。平成17年12月の調査によると、103のサークル（13サークル休止中）が存在し、1,609人の青少年が活動している。

③ ホームページ「やまがたヤングボランティアビューロー」の運営

「やまがたヤングボランティアビューロー」を開設し、県内各サークルの活動状況を中心に次のような内容を公開している。 <http://seinen.jp>

ア 県内地域青少年ボランティアサークルの紹介と活動レポート

イ ＹＹボランティアについて

ウ ボランティア関連団体ホームページとのリンク

エ サークルの活動歴

2 「やってみよう！ＹＹボランティア」の支援について

① 平成17年度は文部科学省の委託事業「地域教育力再生プラン」と連携して支援を実施した。

5月 各地区教育事務所及びボランティアサークル指導者への概要説明

6月 夏休み期間中の各ボランティアサークル自主企画活動の調査

7月 広報用ポスターの制作（2,000部）

活動紹介リーフレット制作（100,000部）

広報用テレビスポットCMの制作と放映

12月 活動報告集の作成

各ボランティアサークルの活動計画を事前に収集したのち、リーフレットに掲載し、県内の中・高校の全生徒及び小学校（各数部）に配布した。体験希望生徒はリーフレットの記載内容により、自分にあったボランティア体験活動を行う。併せて、ボランティア活動のさわやかさをイメージした広報用CMを制作・放映し、より効果的な広報になるように努めた。

② 成果とその普及について

平成17年度の「やってみよう！ＹＹボランティア」への総参加者数は1,500人を超えた。この事業が中高生や大学生といった青少年のみならず、保護者を始め一般成人の方々にも認知されてきたのではないかと考える。

③ 課題について

「やってみよう！ＹＹボランティア」は、地域青少年ボランティアサークルの自ら企画した種々の事業を、ボランティアサークル外の生徒にも開放し、ボランティア体

験を提供しつつも仲間を増やすことを目的としている。ところが、希望する生徒のニーズに対して、ボランティアサークル側の受入れが間に合わないという状況が生じてきている。今後、各サークル間のネットワークの拡大を一層促進しながらも、当センターが中心となり全県的なボランティア体験事業を平行して実施していく必要がある。

④ 今後の取組方針

夏休みを中心とした「やってみよう！ＹＹボランティア」事業をさらに発展させるため、より効果的な広報活動のあり方を検討すると同時に、社会福祉協議会やNPO関係者など民間の方々にも積極的に企画の段階から参加してもらう。

さらに、中高生のみならず大学生など青年層を交えた一斉ボランティア体験活動を実施していく。

*実施状況（平成17年度）

1 参加サークル数	76サークル
2 企画数	65活動
3 活動体験者数	403人
4 YYボランティア参加者数（サークル会員含む）	1,513人
5 総参加者数（イベント等の参加者含む）	6,804人



青少年対象キャンプ STAFF
「ジュニアリーダーあすなろ」(上市市)



小学生対象「ジュニアキャンプ」STAFF
「かだんこの会」(鶴岡市・朝日)



小学生対象パソコン教室 STAFF
「ふれあいマウスの会」(山形市)

執筆者職・氏名：山形県青年の家 研修主査 加藤 浩